

「豊かな心と確かな実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」
～よりよい暮らしをめざし、思いや願いを高め実践する子どもの育成～

- 1 日 時 平成30年6月6日(水) 15:50～16:40
- 2 実施場所 倉吉市立上灘小学校
- 3 講 師 島根大学教育学部 准教授 鎌野 育代 先生
- 4 研修内容

(1) 授業研究会 6年「家族のためにつくろう 朝食のおかず」

「野菜いため」に必要な調理手順に関心を持ち、友達と話し合いながら実習計画を立てる学習であった。グループ協議では、教科書に載っていない食材を扱うことについて意見が出た。教科書では、にんじん・ピーマン・キャベツが使われているが、子どもにいろいろ考えさせたいという担任のねらいもあり、ジャガイモが食材に入っていた。これについて、15分での調理は難しいのではないかという感想もあった。指導助言では、「失敗から学ぶ」ことも「失敗しないように教える」ことも、どちらにも良さがあり、担任の意図するものは何かが重要であることを教えていただいた。失敗したなら、なぜ失敗したのか、おいしくなかった原因は何なのかを追求することが大切であるということであった。

(2) ワークショップ「家族関係に関わるロール・プレイング」

普段の生活では気づかないいろいろな感情や気持ちに気づき、家族や友だちに対して自分がどうふるまったらいいのかを考えることができるようにすることをねらい、ロール・プレイングを行った。

①ロール・プレイングの説明

②ルールの確認

- ・冷やかし、からかい、かげぐちは絶対しない。
- ・実名や実際にあったことを持ち込まない。
- ・学習の後にロール・プレイングのことを話題にしない。

③始まりの拍手をする。(演じる役割が始まるという意識付け)

④パフォーマンスをする様子を見て、参観者はどのように感じたのか話す。

⑤全体で家族関係のロール・プレイングをする。

- ・代表2人が小学生と母親になり、親子のやりとりを1分間演じる。
- ・参観者は2人を観察して感じたことを話す。その後で、演じた2人にも感想を聞く。

⑥グループで家族関係のロール・プレイングをする。

- ・小学生と母親役、司会を決めて行う。

⑦終わりの拍手をする。(演じた役割が終わるという意識付け)



『役を演じる』『参観する』ことを通して、家族や友だちへのかかわり方や気持ちを振り返ったり、異なる立場から物事を考えたりすることができた。親から自分はこう見えるのかと行動を反省したり、子どもが言うことを聞かないときの親の気持ちが少し理解できたりして、これからどうしていこうかと考える機会にもなった。自分と家族、友だちとのかかわりに関心を持ち、よりよい人間関係を築いていく方法を考えることにつながると感じた。